

## 山口県東周防方言



山口県方言区画図

(参考: 中川 1982、藤田 1992)

【山口県の方言区画】山口県は室町期の大内氏による長門・周防の統合や江戸期の毛利氏による防長二州の統治から地域のまとまりが強く、長州弁などとも呼ばれる山口県の方言は均質性が高い。存在動詞「オル」、ナ行変格活用動詞「シヌル(死ぬ)・「イヌル(去る)」、動詞の否定形「～ン」、アスペクト形式の「～ヨル」・「～チョル」、敬語形式「～テ」・「～チャッタ」の使用など、西日本的な特徴を県下全域に共通して持つ。県内の細かな違いに注目すると、山口県の方言区画は旧国境と榎野(ふしの)川を境界線として、西部の「長門方言」と東部の「周防方言」に大きく二分できる。長門方言には準体助詞の「ソ」・「ホ」の使用や、「カータ(書いた)」・「カキター(書きたい)」などのai連母音のa長音化が多く見られ、周防方言には丁寧形式「～アリマス」が頻用されていたことなどが違いとして挙げられる。また隣県とのことばの連続性もみられる。下関市の方言は旧郡名から「豊関方言」と呼ばれるが、様態形式の「～ゴトアル」・「ミラン(見ない)」・「タベリー(食べる)」のような一段活用動詞のラ行五段化形、断定形式「ヤ」など、北九州との連続性が見える。萩市や長門市を含む阿武(あぶ)・大津地域の「北長門方言」には推量形式として動詞に直接付く「行くロー」などの「～ロー」があり、島根県石見方言とのつながりが見られる。岩国市・柳井市など県東部の「東周防方言」には、

敬語形式の命令形「～(ン)サイ」など、広島方言の流入が少なくない。瀬戸内海第三の面積をもつ周防大島(屋代島)の「大島方言」は、東周防方言だけでなく海上交通によって広く愛媛県や大分県の方言の影響も受けている。

【東周防方言について】東周防方言は、岩国市や柳井市などの旧岩国藩領と、旧熊毛郡・旧玖珂郡とを併せた県最東部の地域(周東地区)で用いられることばである。「サキュー」・「サキョー」(酒を)などのワ格格助詞の融合・拗長音化現象や、「ノーダ(飲んだ)」、「アスーダ(遊んだ)」などのマ・バ行活用動詞のウ音便といった現象があるが、若い世代には用いられなくなっている。一方で「ハシリヤー(走れば)」、「イヤー(言えば)」などの拗長音(ワ行五段動詞は「ヤー」)の仮定形や、「イカンコト(行っははいけない、行かないで)」のように禁止形として使われる「～ンコト」などは盛んである。

【調査概要】本稿の記述は、基本的に柳井市生え抜きの高年層話者(1926～1936年生まれ)への聞き取り調査、および柳井市に隣接する田布施町で生育した筆者(1973年生まれ)の内省に基づく。用例は、東周防地域の昔話資料、辞典記述等から引用している(用例出典参照)。引用元の記載のないものは、聞き取り調査・筆者の内省によって得た例文である。なお、昔話資料・辞典等の用例を挙げる場合の共通語訳は筆者による。

### 山口県東周防方言の活用表

《動詞》

活用形		類別				
		a1類 書く	a2類 死ぬ	b類 見る	来る	する
終止類	断定非過去	カク	シヌル シヌ	ミル	クル	スル セル
	断定過去	カイタ カータ	シнда	ミタ	キタ	シタ セタ
	命令	カケ カキー	シネ シニー	ミロ ミー	コイ キー	シロ セロ セー シー
	禁止	カクナ カカンコト	シヌルナ シヌナ シナンコト	ミルナ ミンコト	クルナ コンコト	スルナ セルナ センコト
	意志	カコー	シノー	ミヨー	コー コヨー	ショー シヨー
	推量	カコー カクジャロー	シノー シヌルジャロー シヌジャロー	ミヨー ミルジャロー	コー コヨー クルジャロー	ショー シヨー スルジャロー
	否定意志・ 否定推量	カクマー カカマー	シヌルマー シヌマー シナマー	ミルマー ミマー	クルマー コマー	スルマー スマー セマー
接続類	連体非過去	カク	シヌル シヌ	ミル	クル	スル セル
	連体過去	カイタ カータ	シнда	ミタ	キタ	シタ セタ
	中止	カITE	シnde	ミテ	キテ	シテ セテ
	仮定	カキヤー カイタラ カイチャー	シヌリヤー シニヤー シンドラ シンジャー	ミリヤー ミタラ ミチャー	クリヤー キタラ キチャー	スリヤー シタラ シチャー
派生類	否定	カカン	シナン	ミン	コン	セン
	丁寧	カキマス	シニマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカセル カカス	シナセル シナス	ミサセル ミサス	コサセル コサス	サセル サス
	受身	カカレル	シナレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能肯定	カケル	シネル	ミレル ミラレル	コレル コラレル	《デキル》 《ヤレル》
	可能否定	カケン ヨー カカン	シネン ヨー シナン	ミレン ミラレン ヨー ミン	コレン コラレン ヨー コン	《デキン》 《ヤレン》 ヨー セン
	尊敬	カカレル カキンサル カITE	《ナイナル》 《ノーナル》	ミラレル ミンサル ミテ	コラレル キンサル キテ	サレル シンサル シテ
	継続	カキヨル カキョール カイチョル	シニヨル シンジョル	ミヨル ミチョル	キヨル キチョル	シヨル シチョル
	希望	カキタイ カキター	シニタイ シニター	ミタイ ミター	キタイ キター	シタイ シター
	のだ	カクン(ジャ)	シヌルン(ジャ) シヌン(ジャ)	ミルン(ジャ)	クルン(ジャ)	スルン(ジャ)

a類動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak・u	カイ-タ カー-タ	kをiにする。「行く」ik・uはkをQ(促音)にし「イツ-タ」。「カイ-タ」のaiをaR(長音)にする。
g	嗅ぐ kag・u	カイ-ダ	gをiにする。 -タが-ダになる。
s	出す das・u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	立つ tac・u	タツ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin・u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。 -タが-ダになる。
b	飛ぶ tob・u	トン-ダ ト-ダ	bをN(撥音)にする。 -タが-ダになる。 bを(子音なし)にしbの前の母音oをoR(長音)にする。
m	飲む nom・u	ノン-ダ ノ-ダ	mをN(撥音)にする。 -タが-ダになる。 mを(子音なし)にしmの前の母音oをoR(長音)にする。
r	切る kir・u	キツ-タ	rをQ(促音)にする。
w/	買う ka(w)・u	コー-タ	wを(子音なし)にし、wの前の母音がaの場合はoに変え、
	誘う saso(w)・u	サソー-タ	oR(長音)にする。
	言う ju(w)・u	ユー-タ	wを(子音なし)にし、wの前の母音uをuR(長音)にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生[ガクセー](だ)
終 止 類	断定非過去	アカイ アカー	シズカ(ジャ) シズカナ(ジャ)	学生(ジャ)
	断定過去	アカカッタ	シズカジャッタ シズカナジャッタ	学生ジャッタ
	推量	アカカロー アカイジャロー	シズカジャロー シズカナジャロー	学生ジャロー
接 続 類	連体非過去	アカイ アカー	シズカナ	《学生ノ》 《学生ン》
	連体過去	アカカッタ	シズカジャッタ シズカナジャッタ	学生ジャッタ
	中止	アコーテ	シズカデ シズカナデ	学生デ
	仮定	アカケリヤー アカカッタラ アコーチャー	シズカナラ シズカナナラ シズカジャッタラ シズカナジャッタラ シズカジャー シズカナジャー	学生ナラ 学生ジャッタラ 学生ジャー
派 生 類	否定	アコーナイ	シズカジャ(-)ナイ シズカナジャ(-)ナイ	学生ジャ(-)ナイ
	なる	アコーナル	シズカニナル	学生ニナル
	丁寧	アカイデス アコーアリマス	シズカデス シズカナデス シズカデアリマス	学生デス 学生デアリマス
	のだ	アカイン(ジャ)	シズカナン(ジャ)	学生ナン(ジャ)

1. 動詞の活用の特徴

(1)活用型と語類の対応

a類動詞(五段動詞)は 型、a2類動詞(ナ変動詞)は 型nと 型r、b類動詞(一段動詞)は 型と 型r、「来る」は 型kと 型r、「する」は 型sと 型rの活用形をもつ。

a2類動詞「死ぬ」(ナ変動詞)は 型nが中心だが、断定非過去形・連体非過去形「シヌル」と仮定形「シヌリヤ」および断定非過去形がベースになっている推量形「シヌルジャロー」、否定意志・否定推量形「シヌルマー」、のだ形「シヌルン(ジャ)」などに 型rの形がある点で共通語と異なり、古典語的である。なお「シヌル(死ぬ)」は若者にも盛んに使われているが、同様の活用をもつ「イヌル(帰る)」は若い世代には使われなくなっている。

b類動詞「見る」は共通語と同じ部分が多い。型r化については、可能形「ミレル」があることから共通語と同程度だといえる。一方、命令形に「ミー」があること、推量形に意志形と同形の「ミヨー」があること、否定意志・否定推量形に「ミルマー」と並んで「ミマー」が使われていること、尊敬形にいわゆるテ敬語の「ミテ」が使われることなどによって、共通語よりも 型の形が多くなっている。

「来る」は共通語と同様に命令形や意志形に 型rの形がないが、命令形に「キー」が、意志形に「コー」が併用されており、共通語より 型kの語形が多い。また推量形に意志形と同形の「コー」が使われ、否定意志・否定推量形に「クルマー」に加えて「コマー」があり、尊敬形に「キテ」が使われる点で、 型kの傾向が強い。

「する」は、命令形に 型rの形「シロ」「セロ」がある点にb類動詞との類似がみられる。また、共通語と同様に派生類の受身・可能・尊敬に 型rの形がない。 型sの形が多く、命令形に 型sのイ段・エ段基幹の命令形「シー」「セー」が併用されること、推量形に意志形と同形の「シヨー」があること、否定意志・否定推量形に「スルマー」と並んで「スマー」「セマー」があること、尊敬形に「シテ」が使われることなどが共通語と異なっている。断定非過去形・連体非過去形や断定過去形・連体過去形・中止形に「セル」・「セタ」・「セテ」があることも併せると、「する」は 型se、 型serを語幹とするb

類動詞化が進んでいるとみることもできる。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形・連体非過去形〉

断定非過去形と連体非過去形は同形で、共通語と同じである。「する」は語幹serの「セル」も併用されておりb類的ともいえる。

a2類動詞(ナ変動詞)だけ 型rの「シヌル」があり、 型nの「シヌ」と併用されている。動詞「イヌル・イヌ(帰る)」も同様であるが、やや古めかしい語であり、若い世代は「カエル」を用いて「イヌル・イヌ」を使わなくなっている。

- ・おりやいぬる。(おれは帰る。)(柳井・「いぬる」)
- ・こりゃあ、おかあのええみやげじゃわい、一つこうていぬるとしようかい。(これはおかあの良い土産だ、一つ買って帰るとしようか。)(山口・「山代ばなし」)

〈断定過去形・連体過去形〉

断定過去形・連体過去形は同形で、共通語と同じく基幹音便形に「タ」が後接した形である。「する」はエ段基幹に「タ」を後接した「セタ」もあり、b類的である。

- ・勉強セタから遊びにゆく。(勉強したから遊びに行く。)/悪いことをセタらしい。(悪いことをしたらしい。)(辞典・「せた」)

古い形として「書いた」のai連母音がa長音化した「カータ」も高年層に聞かれる。また、かつての東周防方言には、a類動詞のうち「読む」や「飛ぶ」などの語幹末子音がbやmの動詞において断定過去形・連体過去形が「ヨーダ」「トーダ」などのオ段音便形(いわゆるウ音便)になる現象があった。この現象は一部のb類動詞にも生じている(「伸びる」が「ノーダ」になるなど)ただし、若い世代には使われていない。

- ・日積の八朔祭は、去年は雨での一だだよ。(日積の八朔祭は、去年は雨で延びたよ。)(柳井・「の一だ」)

〈命令形〉

a・a2・b類動詞・「来る」「する」のそれぞれに、共通語と同形の「カケ」「シネ」「ミロ」「コイ」「シロ」と、イ段基幹を長音化した「カキー」「シニー」

「ミー」「キー」「シー」の2系列の命令形がある。また「する」には工段基幹を長音化した「セー」もある。

- ・んなら、もちと粘ってみー。(それならもう少し粘ってみる。)(柳井・「んなら」)
- ・わしにわけを話してみい。(私に訳を話してみる。)(山口・「おさんぎつね」)
- ・早ういっこにせい。(早くひとまとめにしる。)(柳井・「いっこ」)

b類動詞「見る」の場合、型の「ミー」と型rの形式「ミロ」が併存している。当方言では男性のぞんざいな命令形として「ミレーヤ」も聞かれるが、これは「ミロ」に終助詞「イヤ」が後接し、母音融合oi>eRによって「ミレーヤ」が生じ、結果的に型rの形「ミレ」と同形になったものであるうか。

「する」では、型sの「シー」「セー」と型sirの「シロ」に加えて、型serの「セロ」がある。

- ・早うせろいやー。(早くしろよ。)

〈禁止形〉

a・a2・b類動詞・「来る」「する」のそれぞれに、共通語と同じく、断定非過去形に「ナ」が後接した形が使われる。断定非過去形の末尾が「ル」である場合は、「クンナ」のように撥音化することが多い。

- ・そねー、せばりさんな。(そんなに我を張りなさるな。)(柳井・「せばる」)
- ・あ痛っ。ひねきるな。(つねるな。)(柳井・「ひねきる」)

また、否定形に「コト」が後接した「カカンコト」も禁止形として頻用する。「カクナ」に対してやさしい禁止表現であり、主に女性が多く使うが、男性も使用する。

- ・あんぷな運転をせんことよ。(危険な運転をしてはいけないよ。)(柳井・「あんぷな」)

この禁止形は、予防的な禁止表現だけでなく、阻止的な禁止表現にも使われる。

- ・予防的な禁止：今日は黄砂がひどいけー、窓は開けんことよ。(今日は黄砂がひどいから、窓は開けるなよ／開けないでね。)
- ・阻止的な禁止:(窓を開けようとしている人に)開けんこと!(開けるな／開けないで!)

〈意志形〉

意志形は、共通語と同じ形「カコー」「ミヨー」「コヨー」「シヨー」の他、「来る」に「コー」、「する」に「シヨー」が併用されている。b類動詞にも型rのものはない。古くはb類動詞に「ミヨー」などの拗音形が使われていたが、近年は「ミヨー」のように「ヨー」が分化した共通語と同じ形が用いられている。

なお意志形は勧誘の用法ももつ。

- ・よーぎみて、えーもんを開発しようで。(よく調べて良いものを開発しようよ。)(柳井・「ぎみる」)
- ・手がたわん所い上ぎよーで。(手が届かない所へ上げようよ。)(柳井・「たう」)

〈推量形〉

推量形には、意志形と同じ形と、断定形に推量形式「ジャロー」が後接した「カクジャロー」「ミルジャロー」などの形が使われる。

意志形と同形のを推量形として用いるときは、終助詞「ジャー」「ダイ」などの付加によって推量の意味を補強することがある。

- ・あの人も書こーじゃー。(あの人も書くだろうよ。)
  - ・あの人も書こーだい。(あの人も書くだろうよ。)
- 過去推量の場合は断定形に「ジャロー」が付いた「カイトジャロー」に加え、過去形に「ロー」が後接した「カイトロー」の形も使われる。
- ・はー書いたろー。(もう書いただろう。)

〈否定意志・否定推量形〉

否定意志・否定推量形では接辞「マー」を用いるが、a類動詞では基幹ウ段形(断定非過去形)につく「カクマー」と、基幹ア段形につく「カカマー」の2タイプがある。b類動詞も同様に、型rのウ段形(断定非過去形)についた「ミルマー」と、型のイ段形に後接した「ミマー」がある。「来る」では型rのウ段形(断定非過去形)についた「クルマー」、型kのオ段形についた「コマー」がある。「する」では、型rのウ段形(断定非過去形)についた「スルマー」と、型sのウ段形についた「スマー」と工段形についた「セマー」がある。

- ・もう悪いことはセマーじゃないか。(もう悪いことはしないでおこーじゃないか。)/もう

セマイ。(もうするまい。)(辞典・「せまい」)

なお、否定推量形には否定形に推量形式「ジャロー」が後接した「カカンジャロー」などの形も併せて使われる。

当方言では否定形に「マー」が後接することはない(カカンマー、ミンマーなどはない)。また否定意志・否定推量形は勧誘の用法ももつが、「マー」を用いた勧誘形は否定勧誘であり、肯定的な内容の勧誘の意味はもたない。例えば勧誘の終助詞「ヤー」を後接して「カクマーヤー」「カカマーヤー」という時、これは「書かないでおこうよ」の意味であり、「書こうじゃないか」ではない。

〈中止形〉

中止形には基幹音便形に「テ」のついた形が用いられる。

かつては古い形として「書いて」のai連母音がア長音化した「カーテ」や、「読む」などの語幹末がm・bの動詞のオ段音便形「ヨーデ」などがあったが、現在は高年層にもほとんど使われていない。

〈假定形〉

假定形には型の基幹工段形に「バ」が後接して融合した「カキヤー」・「ミリヤー」・「クリヤー」・「スリヤー」が用いられる。a2動詞「死ぬ」の場合、型nの「シニヤー」の他、老年層が主として使う型rの「シヌリヤー」もある。

この他、型音便形(a類動詞)もしくは型基幹(b類動詞)型イ段形(「来る」「する」)に、「タラ」が後接した形や「テワ」の融合形「チャー」が後接した形もある。

・ワンピキをかもーたら、いぼができるよ。(がまがえるをいじめたら、いぼができるよ。)

(柳井・「かもー」)

・にちっちゃー、いけん。仲良うの。(いじめてはいけない。仲良くね。)(柳井・「にちる」)

〈否定形〉

否定形は、「カカン」「シナン」「ミン」「コン」「セン」のように否定接辞「ン」による形を使う。

否定形の過去形は「カカンカッタ」や「カカダッタ」(またはカカザッタ・カカナンダなどのやや古い形)である。

以下、否定形の活用を「見る」で代表させて示す。

断定非過去・連体非過去形 ミン

断定過去・連体過去形 ミンカッタ、ミダッタ、ミザッタ、ミナンダ

推量形 ミンジャロー

中止形 ミンデ、ミント

假定形 ミンニヤー、ミニヤー、ミンカッタラ

・あがーな人とは知らざった。(あんな人とは知らなかった。)(柳井・「あがーな」)

・雨が降らにやーランドじゃ。(雨が降らないならばランドだ。)(柳井・「にやー」)

〈丁寧形〉

丁寧形は共通語と同様に接辞「マス」を後接する形をとる。a類動詞は型イ段、b類動詞は型基幹、「来る」は「キ」・「する」は「シ」に「マス」が続く。

「マス」の活用を「見る」で代表させると次のようになる。「マス」の命令形は共起する語彙に偏りはあるものの、共通語より生産性がある。

断定非過去 ミマス

断定過去 ミマシタ

命令形 ミマセ

禁止形 - 《ミンサンナ》

意志形 ミマショー

推量形 ミマショー

否定意志・否定推量形 ミマスマー

中止形 ミマシテ

假定形 ミマシタラ

・よーふりますういのんた。(よく雨が降りますね。)(柳井・「天候のあいさつ」)

・よーおいでました。(よくいらっしゃいました。「オイデル」は尊敬の動詞。)(柳井・「迎え入れのあいさつ」)

・いにましよーで。(帰りましょうよ。)(柳井・「働きへのあいさつ」)

・おたいらになされませ。(お楽になさってください。)(柳井・「迎え入れのあいさつ」)

・そろそろおかえりませー。(そろそろお帰りください。)(柳井・「見送りのあいさつ」)

丁寧形はアクセントに特徴があり、1拍目(動詞によっては2拍目)が高い型で発音される。語頭が高く始まる動詞「書く」「見る」などや、語頭が低く始まり下がりを持つ動詞「食べる」「起きる」などの丁寧形では、1拍目(「カキマス」「タベマス」で

例えば「カ」や「タ」の部分)が高い型で発音される。また語頭が低く始まり下がり目を持たない動詞の場合、2拍動詞「する」「寝る」などでは丁寧形の1拍目(「シマス」でいえば「シ」の部分)が高く発音され、3拍動詞「上がる」「洗う」などでは丁寧形の2拍目(「アガリマス」でいえば「ガ」の部分)が高い型になる。ただしこのアクセントは高年層にもあまり使われなくなっており、中年層以下ではほとんど聞かれない。またすべての動詞丁寧形にこのアクセントの型が適用できるわけではなく、共通語と同じアクセントのものも多い。

〈使役形〉

使役形には、共通語と同じ「カカセル」「ミサセル」「コサセル」「サセル」などの「(サ)セル」形とともに、「カカス」「ミサス」「コサス」「サス」などの「(サ)ス」形がある。「(サ)セル」形はb類動詞に、「(サ)ス」形はa類動詞に準じた活用をする。

〈受身形〉

受身形は共通語と同じく、「カカレル」「ミラレル」「コラレル」「サレル」など、型のア段基幹に「レル」を後接した「(ラ)レル」を用いる。「(ラ)レル」はb類動詞に準じる活用をもつ。

・腕をへねきられた。痛うて痛うて。(腕をつねられた。痛くて痛くて。)(柳井・「へねきる」)

〈可能(肯定・否定)形〉

可能肯定形では、「カケル」「ミレル」「コレル」などの型のエ段基幹に「ル」が後接した形(可能動詞)と、「ミラレル」「コラレル」などの型ア段形に「レル」が後接した形(b類動詞・「来る」のみ)が使われる。

可能否定形では、可能動詞の否定形「カケン」「ミレン」や、「ミラレン」「コラレン」などの型ア段形に「レル」の否定形「レン」が後接した形(b類動詞・「来る」のみ)が使われる。

さらに能力可能の否定として、「ヨーカカン」「ヨーミン」「ヨーコン」「ヨーセン」のように「ヨー+否定形」が使われる。「ヨー」と可能動詞の否定形による「ヨーカケン」などの形も存在する。なお「ヨー」の古い形として「エー」があったが、今はほとんど使われない。

・私はよーせん。(私はできない。)/君はよーやらん。(君はできない。)(辞典・「よー」)

・よー採れんであーぬいた。(採ることができなくて、当てが外れた。)(柳井・「あーぬく」)  
・えー読めん。(読むことができない。)(柳井・「えー」)

〈尊敬形〉

尊敬形は受身形と同様、型のア段基幹に「レル」の後接する形、型のイ段基幹・型基幹に「ンサル」のつく形、型基幹音便形・型基幹に「テ」を後接したテ敬語形が用いられる。

型のア段基幹に「レル」のつく形は「カカレル」「ミラレル」「コラレル」「サレル」などである。b類動詞「見る」と「来る」は型rの形を用いる。

・まー、おまめになられて。(まあ、安産なさって。)(柳井・「まめになる」の例文)  
・おむかいがおいでられました。(仏様から死者へのお迎えがおいでになりました。(葬式での挨拶))(柳井・「むかい」の例文)

型のイ段基幹・型基幹に「ンサル」が後接する形は、「カキンサル」「ミンサル」「キンサル」「シンサル」などが用いられる。なお「ンサル」による尊敬形の中止形(テ形)や過去形は、古くは「カキンサッテ」「カキンサッタ」の音が脱落した上、「サッタ」の促音が長音になった「カキサーテ」「カキサータ」の形をとるものがあったが、現在はほとんど使われない。

・おそーはよー、嫁さーは、フェリーに乗んさった。(早々と嫁さんはフェリーにのりなされた。)(柳井・「おそーはよー」)  
・にーもよー辛抱して、やないもんになりさーた。(兄(店の男性従業員)もよく辛抱して、柳井者になりなされた。)(柳井・「にー」)  
・おーむすこさーが来さーて、せいのえーこと。(坊っちゃんが出来て(お生まれになって)活気のあることだ。(出産祝いの挨拶))(柳井・「おーむすこ」)

なお、柳井市などには尊敬形の命令形として「カキンサイ」の他に「カキナイ」や「カキサン」の形があり、丁寧な命令形として勧めの表現などに用いられる。ただし高年層以外は「カキナイ」「カキサン」よりも「カキンサイ」の形を主に使っている。

・早ういきない。電車が出る。(早く行きなさい。電車が出る。)(柳井・「いきない」)

- ・しゃんと仕事をやんない。(しっかりと仕事をしなさい。)(柳井・「やんない」)

当方言では 型基幹音便形・ 型基幹に「テ」を後接した「カITE」などのテ敬語形(テ語法)も頻用されている。過去形は「テジャッタ」がつく形と、その融合形「チャッタ」・「チャータ」がつく形とがある。動詞語幹末子音がg・n・b・mの場合は「デジャッタ」「ジャッタ」「ジャータ」がつく。

- ・およめにいってでありますとー(お嫁に行かれるのですって。)(柳井・「婚礼のあいさつ」)
- ・そねー言うてじゃった。(そのようにおっしゃった。)(柳井・「て」)
- ・おーむすこさーひろーちゃーたそーでおめつとーあります。(お坊っちゃんを拾われた(孫がお生まれになった)それで、おめでとうございます。)(柳井・「出産のあいさつ」)

〈継続形〉

継続形のうち動作進行を表す形は 型イ段形・ 型基幹に「ヨル」、完了(結果継続)を表す形は 型基幹音便形・ 型基幹に「チョル」「ジョル」のついた形をとる。ただし動詞によっては「チョル」「ジョル」が動作進行を表すこともある。

- ・今書きよるけー話しかけんことよ。(今書いているところだから話しかけないでよ。)
- ・うちの嫁をいっばらーに、頼うじよるんじゃが。(うちの嫁をあちらこちらに頼んでいるのだが。)(柳井・「いっばらー」)
- ・きなって歌うちよるよ。(得意になって歌っているよ。)(柳井・「きなる」)

〈希望形〉

希望形には 型イ段形・ 型基幹に「タイ」を後接した形をとる。「タイ」は形容詞型の活用をする。ai 母音の融合によるア長音化(ai>aR)で「ター」ともいうが、若い世代は使わない。

- ・餅が食いたいのー。(餅が食べたいなあ。)

〈のだ形〉

「のだ」に相当する形式として準体助詞「ン」による「ンジャ」がある。ただし否定接辞「ン」などに続く場合は同音連続を避け、準体助詞「ン」ではなく「ノ」を使って「カカンノジャ」の形をとることが多い。

当方言では「のだ」形における文末の「ジャ」の

使用が、後続の要素によって2つのパターンにわけられる。「ノー」「ネー」などの終助詞が後接する場合や原因理由節、逆接節内では、「ジャ」が介在して「カクンジャノー」「カクンジャネー」「カクンジャケー」「カクンジャケド(ガ)」などの形をとるが、「デ」「ヨ」「ド」などの終助詞や伝聞の「ト」(テとも)などがつく場合は「ジャ」を用いず、「カクンデ」「カクンヨ」「カクンド」「カクント」のように準体助詞「ン」に終助詞等が直接つく形をとる。

- ・神明祭は大ほこをはやしてから終わるんよ。(神明祭は大ほこを焼いてから終わるのだよ。)(柳井・「はやす」)
- ・このビデオは、レンタルでかってきたんよ。(このビデオはレンタルで借りてきたのだよ。)(柳井・「かった」)
- ・ある日のこと、山代の里のじいさが、岩国の町へ買い物に出たんとい。(買い物に出たのだそうだ。)(山口・「山代ばなし」)

なお「カクンジャ」のように「ジャ」で言い切る場合、情報提供ではなく気づきや納得、あるいは命令などの意味のものとして解釈されやすい。

## 2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

### 【形容詞】

形容詞の活用は基本的に1型である。ただし語幹1拍の「エー(良い)」と「ナイ(無い)」は活用が変則的である。「エー」は交替語幹が「ヨ」となり、語幹が保存されない点が他と異なる。「ナイ」は交替語幹が「ノ」で語幹が保存されていないことに加え、なる形に「ナイナル」をもつ点で変則的である。なお「濃い」「酸い」などは、当方言では語幹が2拍の形容詞「コイー」「スイー」であるため、活用は一般の形容詞と同じである。

形容詞述語は中止形(テ形)・否定形・仮定形(提題型の「チャー」形)・なる形・副詞形・丁寧形(「アリマス」形をとる古い丁寧形)において、交替語幹の長音形もしくは語幹の長音形が用いられる。語幹末母音がa、i、e音の形容詞の場合は交替語幹の長音形が用いられ、語幹末母音がu、o音の場合は語幹の長音形が使われる。(後掲の表参照のこと)

語幹末母音がa音の形容詞のうち、「コワイ(恐い)」「ネバイ(粘りがある)」「コマイ(小さい)」など語



幹末が wa, ba, ma 音のものは才段ではなくア段の交替語幹になることがあり、「コワーナル」「ネバーナイ」「コマーニ(スル)」のように使われている。ただし、どの接続環境でも常にア段の交替語幹が使われるわけではなく、否定形「コワーナイ」なる形「コワーナル」などではア段の交替語幹をとるが、提題型の仮定形「チャー」では「コオーチャー」「ヨオーチャー」のような才段の交替語幹のほうが自然であるなど、活用形によって使用状況に偏りがある。また語幹末が wa, ba, ma 音の形容詞はすべてア段の交替語幹を持つというわけでもなく、例えば「シワイ(固く歯切れが悪い)」は「シオーナイ」「シオーナル」のように才段の交替語幹であるなど、語によってゆれのある状況がある。

形容詞	語幹末母音	交替語幹	例
アカイ(赤い) コワイ(怖い)	a	アコ コオ・コワ	アコー コオー・コワー
オーキー(大きい) ハガイー(歯がゆい)	i	オーキュ ハガユ	オーキュー ハガユー
エー(良い) イビセー(気味悪い)	e	ヨ イビソ	ヨー イビソー

形容詞	語幹末母音	交替語幹	例
カルイ(軽い) ヌクイ(温かい)	u	カル ヌク	カルー ヌクー
オモイ(重い) ヤオイ(柔らかい)	o	オモ ヤオ	オモー ヤオー

〈断定非過去形・連体非過去形〉

共通語形と同じ「アカイ」と、アイ連母音の融合・ア長音化(ai > aR)による「アカー」がある。ただしア長音化した形「アカー」は若い世代には使われなくなっている。

語幹末母音が u の形容詞の一部は、ウイ連母音の融合・イ長音化(ui > iR)によって「ワリー(悪い)」などの形でも用いられるが、ウイ連母音をもつ形容詞が全てイ長音化するわけではなく、語によってばらつきがある(例:ヌクイ ×ヌキー、カルイ ×カリー)。

- ・なっつ、はやーの一。(早いね。)(柳井・「朝のあいさつ」)

- ・時間がなー。(時間がない。)(柳井・「なー」)
- ・こまー時にゃー、ひっちやかましゅうにしつけることよ。(小さい時にはうるさく騒げることだよ。)(柳井・「ひっちやかましー」)
- ・その赤あもん、そりゃ何ちゅうもんでございかの。(その赤いもの、それは何と言うものでございますかね。)(山口・「山代ばなし」)

〈断定過去形・連体過去形〉

形容詞の断定過去形・連体過去形は語幹に動詞型音便基幹「カッ」さらに「タ」が後接した形をとる。

- ・昨日の夕日あえろー赤かったの一。(昨日の夕日はとても赤かったね。)
- ・採るときに赤かったもんわ箱詰めめ頃にゃーうみるでよ。(採るときに赤かったものは、箱詰めめ頃には熟しすぎになるよ。)

〈推量形〉

形容詞の推量形には、「アカイジャロー」「ナカッタジャロー」のように断定形に「ジャロー」が後接した形と、「アカカロー」「ナカロー」のように語幹に動詞型才段基幹の長音形「カロー」が後接した形を併用している。

- ・わんの一つや二つたりないまま返したところで、どうということもないじゃろう。(山口・「石城山の山うば」光・田布施)
- ・大将、それはいちだんとおもしろかろうの一。(山口・「太郎万・次郎万」祝島)

過去推量の場合は断定形に「ジャロー」が付いた「アカカッタジャロー」に加え、過去形に「ロー」が後接した「アカカッタロー」の形も使われる。かつては「アカカッツロー」のように音便基幹に「ツロー」が付く形が用いられていたが、今は高年層にもほとんど用いられていない。

- ・入賞したけー、嬉しかつろ一。(入賞したら、嬉しかっただろう。)(柳井・「つろ一」)

〈中止形〉

中止形は語幹または交替語幹の長音形に「テ」を後接した形をとる。語幹末母音が a, e, o 音の場合は才段長音、語幹末母音が u 音の場合はウ段長音、語幹末母音が i 音の場合はウ段拗長音となる。

- ・はばろーしゅーて、困ちよる。(かさばって困っている。)(柳井・「はばろーしー」)
- ・はしかゆーて、どねーにもならん。(痛がゆく)

て、どうにもならない。)(柳井・「はしかいー」)

〈否定形〉

否定形は中止形と同様に、語幹または交替語幹の長音形に「ナイ」を後接した形をとる。語幹末母音が a、e、o 音の場合はオ段長音、語幹末母音が u 音の場合はウ段長音、語幹末母音が i 音の場合はウ段拗長音となる。ただし語幹末母音が a 音の形容詞のうち「コワイ(恐い)」など語幹末が wa、ba、ma 音のものは、語幹の長音形を用いて「コワーナイ」などの形をとることがある。

・今シーズンわよわーないのー。(今シーズンは弱くないね。)

否定を表す「ナイ」は、古くはアイ連母音の融合・ア長音化(ai > aR)によって「ナー」の形をとっていたが、若い世代には「ナイ」が使われるようになっている。

・きすねてうもーな。(野菜のとうが立って、うまくない。)(柳井・「きすねる」)

・やおーな。(たやすくない。楽ではない。)(柳井・「やおい」)

・焦げちよってうもーないのー。(焦げていてうまくないな。)

〈なる形〉

「なる」形および副詞形には、中止形や否定形と同様に、語幹または交替語幹の長音形を用いる。語幹末母音が a、e、o 音の場合はオ段長音、語幹末母音が u 音の場合はウ段長音、語幹末母音が i 音の場合はウ段拗長音となる。

・たたきすぎて手があこーなった。(叩きすぎて手が赤くなった。)

・あ、ばらけてきた。早よお入りんさい。(小雨が急に降ってきた。早くお入りなさい。)

(柳井・「ばらける」)

ただし語幹末母音が a 音の形容詞のうち、「コワイ(恐い)」など語幹末が wa、ba、ma 音のものは、語幹の長音形を用いて「コワナル」の形を使うことがある。

・くろーなってこわーなったけー帰ったんよ。(暗くなって怖くなったから帰ったんだよ。)

また「ナイ」は「ノーナル」とともに、断定非過去形に「ナル」を後接した「ナイナル」を併用して

いる。

・全部{のーなった/ないなった}(全部なくなった。)

副詞形の場合、主節が動作動詞であるときに「ニ」を介在させることもある。

・あんまりあこーにすると目立ちすぎるでよ。(あまり赤くすると目立ちすぎるよ。)

〈仮定形〉

仮定形には語幹に「ケレ-バ」の融合形「ケリヤー」が付く形と、語幹に動詞型音便形「カッター」の続く形がある。これに加えて、語幹・交替語幹の長音形に「テワ」の融合した「チャー」を後接する形も使われる。

・あかけりゃー食べ頃でよ。/あかかったら食べ頃でよ。(赤いならば食べ頃だよ。)

〈丁寧形〉

丁寧形には、「デス」を断定形に後接する共通語と同じ形と、語幹または交替語幹の長音形に「アリマス」を後接する形とがある。後者は古い形で、現在はほとんど使われなくなっている。アクセントは「アリマス」の「ア」が高い型で発音される。

・あかいですいね。(赤いですよ。)

・おえろーありますいのんた。(お疲れでございますねえ。)(柳井・「働きへのあいさつ」)

・ながおりをしました。おやかましゅーありました。(長居をしました。うるそうございました。)(柳井・「辞去のあいさつ」)

・つくって食うのが、いちばんうもうありましょうの。(お造りにして食うのが一番おいしいでしょうね。)(山口・「山代ばなし」)

山代地方(現岩国市の北西の山間部)では語幹または交替語幹の長音形に「ゴイス」を後接する丁寧形も行われる。

・そりゃあ、どねえして食うのが、よろしうごいすかの。(それはどのようにして食うのがよろしいですか。)(山口・「山代ばなし」)

〈のだ形〉

形容詞述語の「のだ」形は、動詞述語と同じく、準体助詞「ン」による「ンジャ」を用いて「アカインジャ」の形をとる。ただし「ノー」「ネー」などの終助詞が後接する場合や原因理由節、逆接節内では、「ジャ」を介在させて「アカインジャノー」「アカイ

ンジャケー」などの形をとるが、「デ」「ヨ」「ド」などの終助詞や、伝聞の「ト」(テとも)などが後接する場合は「ジャ」を用いず、「アカインデ」「アカインヨ」「アカインド」「アカイント」のように準体助詞「ン」に終助詞を直接つける。

- ・ あかいんじゃの。(赤いのだねえ。)
- ・ こりゃあ鯛ちゅうての、いもや大根とおんなじに、地の中にいけて、つくって食うと、いちばんうまいんていや。(これは鯛といってね、芋や大根と同じように、土の中に埋めて、育てて食うと一番うまいんだとよ。)(山口・「山代ばなし」)

なお動詞と同様、「アカインジャ」のように「ジャ」で言い切る場合は、気づきや納得、強調などの意味のものとして解釈されやすい。

#### 【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語では、「シズカ(ジャ)」「シズカジャッタ」など、名詞述語の「学生(ジャ)」「学生ジャッタ」に対応する活用型(形容名詞「シズカ」が名詞述語における名詞に準じている活用型)と、「シズカナ(ジャ)」「シズカナジャッタ」など、「シズカナ」部分が名詞述語の名詞に対応する活用型とがある。

#### 〈断定非過去形〉

形容名詞述語では、断定非過去形として「シズカ(ジャ)」「シズカナ(ジャ)」の2パターンがある。名詞述語では名詞に「ジャ」の後接した形をとる。

動詞述語や形容詞述語の「のだ」形における「ジャ」の使われ方と関連するが、形容名詞述語や名詞述語の断定非過去形は「ノー」「ネー」などの終助詞が後接する場合や原因理由節、逆接節内などでは、「ジャ」が介在して「シズカジャノー」「シズカナジャノー」「学生ジャノー」や「シズカナジャケー」「学生ジャケドガ」などの形をとる(ただし「ネー」が後接する場合は「ジャ」を介さない「シズカナネー」も可)。高年層や昔話の用例では、「ワ」や「デ」などの終助詞でもこれと同様に「ジャ」を介することが多い。

- ・ なんだか、変じゃのう。(なんだか、変だねえ。)(山口・「石城山の山うば」)
- ・ こりゃあ、おかのええみやげじゃわい、一

つこうていぬるとしようかい。(これはおかの良い土産だなあ、一つ買って帰るとしようか。)(山口・「山代ばなし」)

一方、中年層・若年層以下の世代は、「デ」「ヨ」「ド」などの終助詞や、伝聞の「ト」(テとも)などが続く場合は「ジャ」を介さず、「シズカデ」「シズカナデ」「学生デ」のように終助詞が直接つく形をとる(「ワ」は中年層・若年層以下においては形容名詞述語や名詞述語に後接できない)。

- ・ あっちのほーが静かな{で/×じゃで}。(あっちの方が静かだよ。)
- ・ ありゃー学生{ど/×じゃど}。(あの人は学生だぞ。)

また「ジャ」で言い切る場合、イントネーションによっては気づきや確認要求などの意味のものとして解釈されやすい。

- ・ 雨でびっしゃじゃ。(雨でずぶぬれだ/雨でずぶぬれじゃないか。)(柳井・「びっしゃ」)

#### 〈連体非過去形〉

形容名詞述語の連体非過去形は、共通語と同じ形「シズカナ」が使われる。

- ・ しずかなとこじゃのー。(静かな所だね。)
- ・ いなげな天気じゃの。(変な天気だね。)(柳井・「いなげな」)

名詞述語の連体非過去形は、名詞の連体格と同じように助詞「ノ」を用いる。

#### 〈断定過去形・連体過去形〉

形容名詞述語・名詞述語の断定過去形・連体過去形は、動詞型の音便基幹に過去辞「タ」を後接する形をとる。ただし形容名詞述語では「シズカナ」に動詞型基幹音便形とタが続く「シズカナジャッタ」も使われる。

#### 〈推量形〉

形容名詞述語は「シズカジャロー」と「シズカナジャロー」の2パターンがある。名詞述語では名詞に「ジャロー」の後接した形をとる。

- ・ あの島でくらしたら、きっとゆかいじゃろうよのう。(あの島で暮らしたら、きっと愉快だろうなあ。)(山口・「太郎万・次郎万」)
- ・ そりゃーお金じゃるー。(それはお金だろう。)

#### 〈中止形〉

共通語と同じ非動詞型の「シズカデ」「学生デ」が

使われる。形容名詞述語には「シズカナデ」もあり、前件である中止節と後件である主節とが異主語で対比的な構造をもつ場合などに現れやすい。

- ・あっこわ静かで、涼しーだよ。(あそこは静かで、涼しいよ。)
- ・駅のあっち側わ静かなで、こっち側は賑やかだよ。(駅のあちら側は静かで、こちら側は賑やかだよ。)
- ・あの子わ学生で、一人暮らしだよ。(あの子は学生で、一人暮らしだよ。)

〈假定形〉

共通語と同じ形「シズカナラ」「学生ナラ」とともに、形容名詞述語には「シズカナナラ」がある。また動詞型の音便語幹に「タラ」が後接する「シズカジャッタラ」「シズカナジャッタラ」「学生ジャッタラ」も使われる。

- ・あっちの方が{静かなら/静かななら/静かじゃったら/静かなじゃったら}あっちで勉強しよー。(あっちの方が静かなら、あっちで勉強しよう。)
- ・学生{なら/じゃったら}勉強せー。(学生ならば勉強しろ。)

また「デウ」の融合形「ジャー」が後接した形「シズカジャー」「シズカナジャー」「学生ジャー」も用いられる。

- ・こねーに{静かじゃー/静かなじゃー}余計に集中できん。(こんなに静かでは、余計に集中できない。)
- ・学生じゃー申し込めん。(学生では申し込めない。)

〈否定形〉

形容名詞述語では「シズカジャ(ー)ナイ」・「シズカナジャ(ー)ナイ」が、名詞述語では「学生ジャ(ー)ナイ」のように、「ジャ(ー)ナイ」を後接する形が用いられる。

- ・あちは{静かじゃーない/静かなじゃーない}(あちは静かでない。)
- ・ありゃー学生じゃーない。(あの人は学生ではない。)

「ジャーナイ」のように「ジャ」の部分に長音を発音することが多いが、従属節に生起するときや、主節末でも終助詞が後接するときなどは、「ジャナイ」

と短く言うこともある。

- ・あっちわ静かじゃないけー、ここにおろーやー。(あちは静かでないから、ここにいようよ。)
- ・ありゃー学生じゃないいや。(あの人は学生ではないよ。)

〈なる形〉

共通語と同じく、形容名詞・名詞に「ニナル」を後接した形をとる。「ニ」は「ン」と発音されることも多い。

- ・はー静かになっただよ。(もう静かになったよ。)
- ・はー学生になったんじゃけー、しゃんとしんさい。(もう学生になったのだから、しっかりとしなさい。)

副詞形の場合、形容名詞に「ニ」を後接した形をとる。

- ・静かにせー。(静かにしろ。)

〈丁寧形〉

丁寧形には形容名詞・名詞に「デス」を後接した形を用いる。形容名詞述語では「シズカナデス」のように「ナ」の介在する形がある。

- ・こかー{静かです/静かなです}(ここは静かです。)
- ・あのひたー学生です。(あの人は学生です。)

古くは「デアリマス」を後接した形もあったが、現在は高年層にもほとんど使われなくなっている。アクセントは「デアリマス」の「ア」の部分が高い型で発音される。

- ・あそかー静かでありますい。(あそこは静かでございますよ。)
- ・つい、おしるしであります。(ほんの心付けでございます。)(柳井・「訪問のあいさつ」)

〈のだ形〉

のだ形に関しては動詞述語や形容詞述語と同じく、準体助詞「ン」による「ンジャ」を用いる。形容名詞述語でも名詞述語でも動詞型尾略形の「シズカナ」「学生ナ」に「ンジャ」が後接する。

ただし「ジャ」の現れ方については、動詞・形容詞と同様に、「ノー」「ネー」などの終助詞が後接する場合や原因理由節、逆接節内では「ジャ」が介在する「シズカナンジャノー」「シズカナンジャケー」などの形が使われるが、「デ」「ヨ」「ド」などの終助

詞や伝聞の「ト」(テとも)などがつく場合は「ジャ」を用いず、「シズカナンデ」「シズカナンヨ」「シズカナンド」「シズカナント」のように準体助詞「ン」に終助詞類が直接続く形をとる。

- ・ 静かなんじゃのー。(静かなんだね。)
- ・ 静かなん{よ / ×じゃよ}。(静かなんだよ。)
- ・ 学生なんじゃのー。(学生なんだね。)
- ・ 学生なん{よ / ×じゃよ}。(学生なんだよ。)

また「シズカナンジャ」「学生ナンジャ」のように「ジャ」で言い切る場合は、気づきや納得、強調などの意味のものとして解釈されやすい。

#### 用例出典

柳井：市立柳井図書館編(1991)『柳井の方言』(柳井図書館叢書第7集)市立柳井図書館

辞典：山中六彦(1975)『新訂 山口県方言辞典』マ

#### ツノ書店

山口：山口県小学校教育研究会国語部編(2004)『読みがたり 山口のむかし話』日本標準

引用した昔話の地域は以下のとおり

「山代ばなし」山代地方(現岩国市北西部)

「おさんぎつね」岩国市

「石城山の山うば」田布施町・旧大和町(現光市)

「太郎万・次郎万」祝島(上関町)

#### 参考文献

中川健次郎(1982)『山口県の方言』講座方言学8 中国・四国地方の方言』国書刊行会

藤田勝良(1992)『山口県方言』平山輝男他編『現代日本語方言大辞典』明治書院

(舩木礼子)